

都市緑化研究会

都市緑化研究会は2017年、「都筑区花いっぱい運動」の一環として、地域×東京都市大学×都筑区で連携し、早濑川沿いの中川三丁目市有地を緑化する「早濑川・老馬谷^{ろうばやと}ガーデンプロジェクト」への参加を機に発足しました。花壇などの維持管理を目的とし、近年の横浜祭では、ガーデンの植物を使って製作したクラフト商品の販売なども行っています。



会長

環境学部
環境創生学科3年
中村友哉さん

環境学部
環境創生学科2年
齋藤真衣さん

環境学部
環境創生学科2年
田口理子さん

責任感を持って、 ガーデンの景観維持を担う

横浜キャンパスがある中川駅周辺は、多摩丘陵地の港北ニュータウンとして開発され、緑や公園も多い自然溢れた地域です。都市緑化研究会が管理を行っている早濑川・老馬谷ガーデンは、2017年に全国都市緑化よこはまフェアの一環としてスタートしたプロジェクト。中川駅周辺の街作りを行うNPO法人「ぐるっと緑道」と横浜市都筑区、そして本学が連携し、街の賑わいや防犯、環境対策を役割として、早濑川沿いの180mにわたる空き地に緑地を造成しました。緑地は造成期間中に「早濑川・老馬谷ガーデン」と命名され、花々が緑が植えられて、地域住民の憩いの場として親しまれています。

都市緑化研究会の会長を務める中村さんは、2023年に入会しました。当時を振り返ると、思わぬ人手不足に悩まされていたといいます。「僕はもともと生き物や土いじりが好きで、ガーデンを管理する都市緑化研究会はぴったりだと思い、入会しました。しかし実際に活動していた会員は、先輩一人だけでした。他に所属会員はいたものの、ほとんど参加していませんでした。そこで他のサークルや、地域連携型の研究を展開している環境創生学科飯島研究室の学生に補助してもらいながら、人手不足のなかで草むしりから土づくり、生垣の剪定ま

で景観維持を行っていました。本学の担当エリアのみとはいえ、重労働で大変でしたね。でもガーデンを楽しむ地域の方がいますので、責任感を持ってがんばりました」。



早濑川・老馬谷ガーデンを維持管理している様子。毎月2回、各2時間、地域住民の方々と共に整備を行っています。

1年前とは状況が一変！ 努力が報われた

当初、都市緑化研究会の活動はガーデンの管理のみでしたが、2020年からガーデンで採集した、花や草木を使ったクラフト制作もスタートしていきました。そしてこの活動が、のちの都市緑化研究会のピンチを救うこととなります。それは2024年9月横浜祭の出展ブースでの出来事。中村さんは先輩と二人で、押し花を使ったしおり作り体験を開催していたところ、当時1年生だった田口さ